

前橋市立前橋高等学校 学校評価一覧表① (令和3年度版)

(様式1)

評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
				自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①地域活性化プロジェクト「めぶく」に主体的に取り組んだと感じている生徒の割合が75%以上である。	総合的な探究の時間を通して生徒が主体的に活動し、自己決定をすることで自己有用感を得られるような取組を図る。習熟度別各クラスにおける到達目標を明確にし、生徒に自覚させることで学習意欲を喚起する。少人数制授業の利点を生かし、主体的・対話的な学習活動を展開することで生徒が思考・判断・表現する機会を設ける。習熟度や少人数制などの指導により達成感や満足感を確認するための、振り返りや小テストなどを積極的に取り入れる。生徒が主体的に考え、学び合うテーマの設定と興味関心を引く授業を展開することで、理解を実感させる。	A	A	活動内容の振り返りや自己評価を行うことで、個々の取り組みや成果を実感できる機会を設定する。各クラスにおける到達目標を明確にし、生徒との共通認識を図る。また、生徒に達成感を持たせる指導の継続を行う。少人数制の利点を生かした主体的・対話的な学習活動や個に応じた指導を積極的に取り入れる。	A	A	生徒の取り組みや成果を適切に評価するとともに、教員間で共通理解を図ることができた。さらに、個々の能力を活かす指導を充実させたい。個々の到達目標を明確にし、学習の振り返りと目標設定を行わせることで、生徒の学習意欲を向上させる指導を継続したい。
		②習熟度別で履修することにより、生徒の75%以上が学習意欲が向上したと感じている。		A	B		A	B	
		③少人数制で履修することにより、生徒の75%以上が思考・判断・表現力が向上したと感じている。		A	B		A	B	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④学習に対する達成感や満足感をもっている生徒が80%以上である。	定期的理解度を測ることで、生徒自身につまずきを分析させ、個に応じた指導で理解を深める指導を行う。学習時間調査を定期的に行い、目標や課題を設定させ、家庭学習の必要性を自覚できる指導を実践する。月1回の職員会議、毎週行われる校務運営委員会と学年会議において生徒情報について周知を図る。登校してから朝学習にスムーズに移行できるように、登校時指導とHR指導を行う。	A	B	生徒の学力や目標に合った授業計画を立て、スモールステップで達成感を得やすい授業を実践する。積極的に授業公開をし、協働的な学習やICTの活用に関しての指導方法を教員相互で検討し合うなど充実を図る。	B	B	習熟度や少人数制などのクラス展開を生かした授業を推進することができた。生徒の能力に合わせた指導を展開していきたい。個々の生徒の理解度やつまづきに応じ、指導方法を改善するなど授業内容の定期的な見直しを継続する。
		⑤「授業がわかりやすい」と評価している生徒が80%以上である。		A	B		A	B	
	3 生徒は確かな学力を身につけていますか。	⑥「授業を通して学力がついた」と評価している生徒が70%以上である。 ⑦進路実現のために必要な学習時間が十分に確保できている生徒が60%以上である。		A	B	確認テストを定期的実施し、自身の理解度を確認させるとともに、評価を伝えることで達成感を得られる授業を行う。進路係を活用し、各クラスで学習時間を意識させる場を毎日のHRで設定する。	A	B	単元ごとのまとめや確認テストを定期的実施し、生徒が自己の学習成果や今後の課題を認識できる機会を増やしたい。11月の学習時間調査では、1、2学年の学習時間が1学期と比較して減少したため、学習時間が増えるような指導を学年毎に実施する。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に4回程度実施している。(80%以上)	学校いじめ防止基本方針を生徒と保護者に周知徹底させ、いじめ防止とともに諸問題について早期発見早期対応を心掛け、組織的対応を図る。基本的な生活習慣を身につけさせるため、全職員で生活指導に取り組み、規律ある学校生活を送れるようにする。校内の美化と環境への配慮を意識づけることにより、快適で安全な学習環境を整備する。	A	B	職員会議、校務運営委員会、学年会議、分掌会議において生徒情報の周知と情報共有を図る。登校時指導と朝学習指導について各学年と生徒指導部で行う。	A	B	各会議で生徒の情報交換、全体での共有を図ることができた。滞ることがあったので、スピード感をもって取り組んでいくことが課題である。ほぼ毎日指導を行っている。ほとんどの生徒が8時25分に着席し、朝学習に取り組んでいるが、100%になるよう生徒指導と各学年が協力して指導を継続する。
		⑨登校時指導(朝学習も含め)を週3回以上実施している。(80%以上)		A	B		A	A	
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩学校は「学校いじめ防止基本方針」について、生徒に説明している生徒が80%以上である。		A	B	学校いじめ防止基本方針について各HRで指導を行うとともに、ClassiやHPに掲載しいつでも確認できるようにし、いじめの早期発見早期対応を心掛け、組織的対応を図る。	A	B	学校いじめ基本方針の周知徹底を行うため、2回に渡り各HRでの説明とClassiにその旨を掲載した。継続していじめの早期発見早期対応について、組織的対応を図ってきたい。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑬「自己の生き方」と「将来の職業」との関連について考えている生徒が80%以上である。	探究学習計画「めぶく」を通して、自己の生き方を考える取組を充実させる。家庭での進路についての会話を増やせるように、保護者参加の進路講演会や進路通信を充実させる。進路通信・進路情報誌を生徒が主体的に活用する指導を心掛けるとともに、オレンジメールとClassiの活用をする。進路実現計画「さ霧晴れて」に基づいて、二者面談を中心とした個別指導を適切に実施する。	B	B	「めぶく」の活動目的を生徒にさらに理解させるために、活動前の説明と事後のまとめの活動を徹底する。三者面談など、保護者と直接向き合える場を有効活用する。進路情報についても、学年や進路で適宜発信する。	B	B	年間を通じた活動は概ね予定通り実施でき、生徒の達成感も高かった。コロナ禍で、大学見学やオープンキャンパスも十分実施できなかったが、二者面談や三者面談は十分実施できた。
		⑭生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。		B	A		A	A	
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮進路通信や進路情報誌などを活用している生徒が80%以上である。 ⑯進路実現に向けた指導に満足している生徒が80%以上である。		D	B	進路通信は月1回程度発行して最新の情報を提供できるよう心がけたい。	D	B	Classiなどを使い、生徒や保護者に情報がスムーズに届くようになった。今後も有用な情報を適宜発信したい。「さ霧晴れて」を生徒に周知できていない。今後は生徒にも3年間を見通した学習計画に基づいて進路指導をしていることを理解させたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰学校のWebページやオレンジメールで学校の情報を確認している保護者が80%以上である。	学校における諸活動の様子や最新の情報をWebページ等に適宜掲載し、家庭や地域のニーズに対応する。保護者と生徒が共に参加できる行事が行われていることを周知し、保護者が参加しやすい環境を整える。生徒に貸与されたChromebookやスタディサプリ、Classi Noteなどを活用した授業や探究学習を積極的に実践する。市から貸与されたChromebookにより高い教育効果が得られるよう、指導方法を工夫する。学校行事への参加申込みや各種調査をGoogle forms等を利用してオンラインで行い、提出および集計作業を軽減する。	A	B	HPの更新を頻繁に行うなど、情報発信に努めるとともに、メールやClassiを活用してHPの閲覧を促す。コロナ禍により、保護者参加型の行事の回数が例年より少なかったが、実施形態を含めて今後の行事計画を検討したい。	B	A	HPの更新を頻繁に行うなど、情報発信に努めるとともに、紙面での連絡や情報発信も併用しながらHPの閲覧を促したい。他の分掌・学年とも連携して渉外関係の行事の周知を促進することと参加したいと感じる内容を検討する。
		⑱保護者と生徒の合同行事が年2回以上実施されていることを認識している保護者が80%以上である。		B	B		B	B	
	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲授業や家庭学習においてChromebookを活用する教職員の割合が80%以上である。 ⑳ICTを活用した授業や探究学習に満足している生徒が80%以上である。		B	B	導入直後と比べると授業での活用頻度は向上した。今後も適切な活用を心がけ、学力向上に繋げたい。Classi NOTEの活用方法に関わる職員研修を実施した。Google Classroomは、分散登校時に、Meetを中心として活用場面が多かった。	B	B	年間を通して比較的スムーズにICTを導入できた。ICTありきではなく、教育効果を考えた活用の在り方を考える必要がある。Classi NOTEやGoogle Classroomは多くの授業で活用されてきた。今後も徐々に利用の場を増やしたい。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑学校行事の出欠確認や各種調査への回答および集約が便利になったと感じている生徒・保護者・職員の割合が80%以上である。	学校行事への参加申込みや各種調査をGoogle forms等を利用してオンラインで行い、提出および集計作業を軽減する。	B	B	参加申込みや各種調査の入力フォームへの接続や入力作業を簡略化することで、回答者が利用しやすくなるような工夫を継続する。	B	B	学校への欠席連絡や学校行事への参加申込み等、入力作業を簡略化し使用方法を周知することができた。さらに保護者が利用しやすくなるような工夫を継続したい。
		㉒ICTを活用したアンケートに回答している生徒・保護者の割合が90%以上である。		D	B	アンケート実施のお知らせや回答方法をオレンジメールやClassiで送信し、周知徹底を図る。	C	A	アンケート実施の案内や回答方法を紙面とClassiの両方で周知するとともに、HRの時間等を活用し、回答を促したい。